

はじめに

文京区には、江戸時代の大名屋敷や神社・仏閣に端を発する樹木や樹林が残され、風格あるみどりの拠点多く点在しています。また、文教地区として多くの大学が存在し、それらのみどりが、地域に安らぎを与える存在となっています。

みどりは、区民やまちを訪れる人たちへ快適な環境や潤いをもたらすだけでなく、災害時の防災機能、遊びや憩いの場を提供するレクリエーション機能など、様々な役割を果たしています。また、四季折々の花をテーマとした「さくら」「つつじ」「あじさい」「菊」「梅」の名前が付く“文京花の5大祭り”は、区民にとってみどりに関係深いものとなっています。

区では、平成10年度に「文京区緑の基本計画」を策定し、みどり豊かな文化の香り高いまちづくりを進めてまいりました。この第8次文京区緑地実態調査は、区内のみどりの現況と経年変化を把握し、次年度の「文京区緑の基本計画」改定に向けて、緑化施策の方向性を検討するための基礎資料とするものです。

今後も地域の特性や区民ニーズを踏まえ、将来都市像“歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」”の実現を目指し、文京区のみどりの充実と継承に取り組んでまいります。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました区民の皆様並びに関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

文京区長 成澤 廣 修